

日本を代表する建築家の作だった「港北図書館」、 65 年を経て村野氏関与の新資料

公開日：2025 年 4 月 7 日 (全 6 ページ)

【コラム】これも市の“出先機関”の建物ゆえの宿命でしょうか。菊名 6 丁目の綱島街道沿いにある「港北図書館・菊名地区センター」(旧港北区総合庁舎)は、旧横浜市役所などの設計を手掛け、日本を代表する建築家の一人として知られる村野藤吾(とうご)氏(※)の作品だったことを示す新たな資料がこのほど見つかりました。一方、これまで 65 年近くにわたって、なぜこの事実がほとんど知られていないのかという疑問に対する答えはまだ分かっていません。

現在の港北図書館・菊名地区センターは、もともと港北区の総合庁舎として 1960(昭和 35)年秋に竣工した建物でした。その後は人口の急増もあって手狭となり、大豆戸町に現在の総合庁舎(区役所・消防署・公会堂)を 1978(昭和 53)年秋に新設したため、1980(昭和 55)年 8 月以降は港北図書館(1~2 階)と菊名地区センター(3 階)として転用されたものです。



1960(昭和 35)年 10 月に竣工し、記念式典を行った際の港北区総合庁舎(現港北図書館・菊名地区センター)。壁面と一体化させたような奥行き薄い長方形の外窓は、村野藤吾氏がのちに手がける横浜市立大の校舎(1963 年、現存)や、戦前の代表作とされる「近三ビルヂング(旧森五ビル)」(1931 年、現存)などでもみられる(1961 年発行横浜市総務局統計課編「市政概要 1960 年版」=国会図書館デジタルコレクション=より)



上の写真から 64 年半を経た 2025 年 4 月の「港北図書館・菊名地区センター」、竣工当時と比べ窓のサッシが変わったり、耐震補強による柱の出っ張りらしきものが壁面に見えるが、全体的な見た目は竣工時と大きく変わっていない

この旧総合庁舎は、港北区が区制 20 周年を迎えることを記念し、綱島街道沿いの旧港北区役所敷地を拡張して建てられた鉄筋コンクリート造り 3 階建ての建物で、当時の市内区役所では最大となる 3300 平方メートルの延べ面積。1 階と 2 階を区役所とし、3 階には 400 人収容の公会堂を設け、同じフロアには保健所も入りました。

(※)村野藤吾(1891年～1984年):1891(明治24)年5月佐賀県唐津生まれ、早稲田大学卒。1929(昭和4)年に渡辺節建築事務所から独立、日本を代表する建築家の1人。40歳時の1931(昭和6)年に「近三ビルヂング(旧森五ビル)」(東京都中央区日本橋室町に現存、東京都選定歴史的建造物)を手掛ける。戦後は66歳だった1957(昭和32)年に有楽町の「読売会館(旧有楽町そごう、現ビックカメラ有楽町店)」、1959(昭和34)年には「横浜市庁舎(関内駅前の旧庁舎)」、1963(昭和38)年に「日本生命日比谷ビル/日生劇場」、75歳時の1966(昭和41)年に「目黒区役所(旧千代田生命本社ビル)」、87歳時の1978(昭和53)年には「ザ・プリンス箱根芦ノ湖(旧箱根プリンスホテル)」、91歳時の1982(昭和57)年に「グランドプリンスホテル新高輪(旧新高輪プリンスホテル)」など、晩年にいたるまで、現存する著名な建築物を始めとして関西と首都圏を中心に多数の設計を手がけ、1984(昭和59)年11月に93歳で死去。1955(昭和30)年日本芸術学院会員、1967(昭和42)年文化勲章受章、受賞歴多数

市庁舎の次に港北区庁舎を依頼

1960(昭和35)年に竣工した旧港北区総合庁舎の設計者について、「村野森建築事務所東京事務所の村野藤吾氏(芸術会々員=※記事にある「芸術会々員」は日本芸術院会員の誤りとみられる)に依頼することに決定した」(1958年12月20日「横浜港北新報」と報じられたのは竣工の2年ほど前となる1958(昭和33)年12月のことでした。

(昭和26年6月18日)
第三種郵便物認可 第288号(2)

設計は村野氏

区総合庁舎いよ具体化

この日各関係者から種々希望が述べられ、それに基づいて設計構想がねられた。三階建坪千坪で鉄筋コンクリートとし、区役所、保健所、民生安定所公会堂を収容する。本年度予算に既に二千万円が計上されており、総予算は七千万円であり、三千万計画といわれているが、実際はもつと早く完成

区総合庁舎新築で十日、市長副室に関係者が集り協議した結果、いよいよ年度内に着工するので、設計を村野森建築事務所東京事務所の村野藤吾氏(芸術会々員)に依頼することに決定した。建築基本設計を明年二月二十八日完成、直ちに年度内に一部着工することをきめた。

この日各関係者から種々希望が述べられ、それに基づいて設計構想がねられた。三階建坪千坪で鉄筋コンクリートとし、区役所、保健所、民生安定所公会堂を収容する。本年度予算に既に二千万円が計上されており、総予算は七千万円であり、三千万計画といわれているが、実際はもつと早く完成

を見るものといわれる。

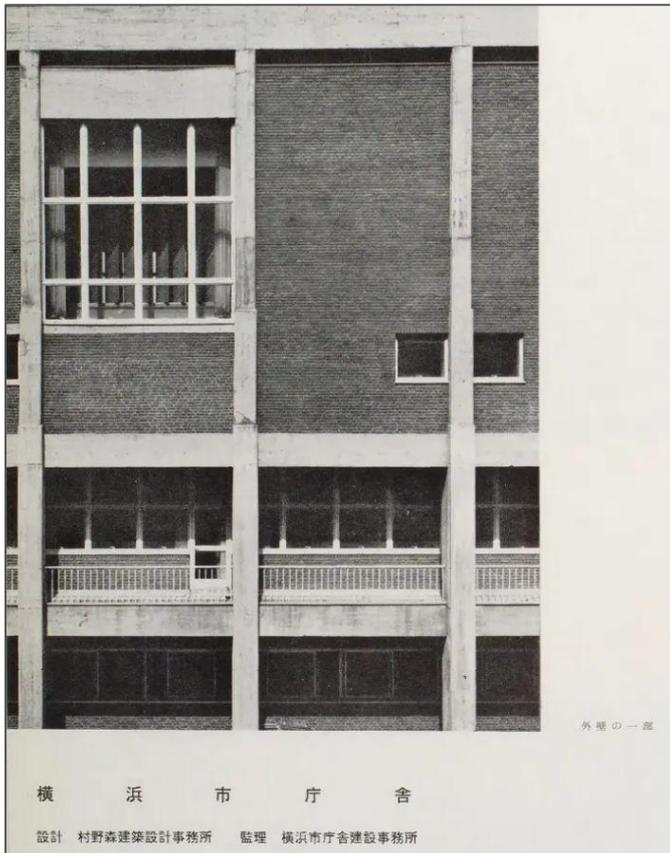
第一次建築設計案は明春一月二十二日提出され、更に検討の上二月二十八日に決定する予定である。なおこの設計に当る村野藤吾氏は新、市庁舎の設計者で、その卓越せる設計は広く認められており、読売会館も氏の設計によるもので、カベの美しさを出すことを特徴として、かつて藍綬褒賞を受けている。

▽出席者 及川総務局長、内藤建築局長、藤田衛生局長代理、武井民生局長、川村区長、谷山保健所長、白井安定所長の諸氏。

1958(昭和33)年12月20日号の「横浜港北新報」では港北区の新たな総合庁舎の設計に市庁舎の設計も担った村野藤吾氏を選んだことを伝えている

日吉に拠点を置き 1953（昭和 28）年に創刊した旧港北区域の地域新聞「**横浜港北新報**」（緑区と分離した 1969 年から「**横浜緑港北新報**」に改題し 1998 年まで刊行）は、横浜市役所内で総務局長や建築局長、港北区長ら 7 氏が副市長室に集まって**区の新たな総合庁舎の概要**を決めたことを伝えています。

そのうえで、「この設計にあたる**村野藤吾氏は新、市庁舎の設計者**で、その**卓抜せる設計**は広く認められており、読売会館も氏の設計によるもので、カペの美しさを出すことを特徴としていて、かつて藍綬褒章を受けている」（1958 年 12 月 20 日号）と紹介しました。



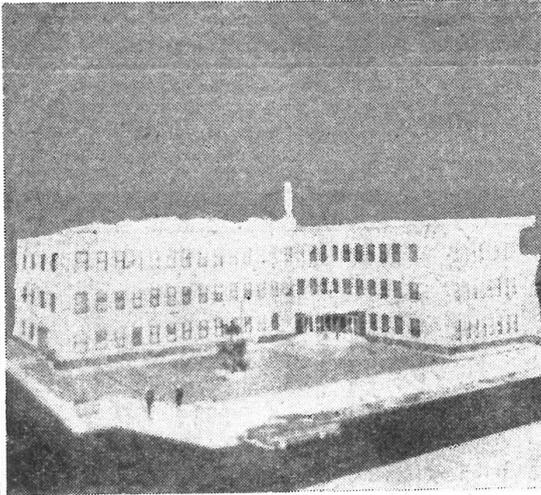
1959（昭和 34）年に竣工した**横浜市庁舎**（関内駅前の 7 代目）は「設計 村野森建築設計事務所」「監理 横浜市庁舎建設事務所」と紹介している（1959 年 12 月株式会社日刊建設通信社発行、営繕協会編集「公共建築」=国会図書館デジタルコレクション=より）

記事にある“**新、市庁舎**”とは、2020 年まで使われた**関内駅前の旧横浜市庁舎**（7 代目市庁舎）のことで、1959（昭和 34）年 9 月に竣工しているため、記事が掲載された 1958（昭和 33）年末の時点ではまだ建設途中。

一方で**市庁舎設計**の業務は一段落していたとみられ、そうしたなかで市は“次の仕事”として**村野氏に港北区の総合庁舎を依頼**。この後には**市立大学金沢八景キャンパス本校舎**（1963 年竣工）の設計も依頼しており、横浜市の公共施設では 3 つの設計を村野氏が担当したことになります。

起工式に顔を見せた村野藤吾氏

市庁舎に続いて村野氏が設計した港北区総合庁舎は、「**飛躍する港北の象徴**」（1959 年 8 月 6 日「横浜港北新報」）として、1959（昭和 34）年 8 月 1 日に港北区役所（木造 2 階建ての旧区庁舎）で**起工式**を開き、この場には**村野氏も顔を見せた**ことを横浜港北新報が伝えます。



厳粛に起工式

区総合庁舎 夢を描き

区の総合庁舎の起工式が八月一日区役所で挙行、市から及川総務局長、建築、衛生、民生の各局長代理、地元からは鶴村、石橋、三谷、岩田、石川の各市議員自治会代表として柴田敏夫氏(荻名南町)らが列席、設計の村野氏も顔を見せ、請負の紅梅組副社長酒井勝利、川村区長らが中心となって、荻名神社宮司の石川孝雄氏が挙式を厳粛に取行った。

式終了後、着工を祝い、川村区長と酒井紅梅組副社長の挨拶があり、地元代表として石橋市議がおよろこびの言葉を述べた。

なお契約も既報の如く総工費は八千五百八十五万円、鉄筋コンクリート三階建てであり区役所、民生安定所、保健所の総合庁舎が来年出来あがるわけで、飛躍する港北の象徴として世紀の金字塔建設は第一歩を踏み出した。

(写真は総合庁舎の完成)

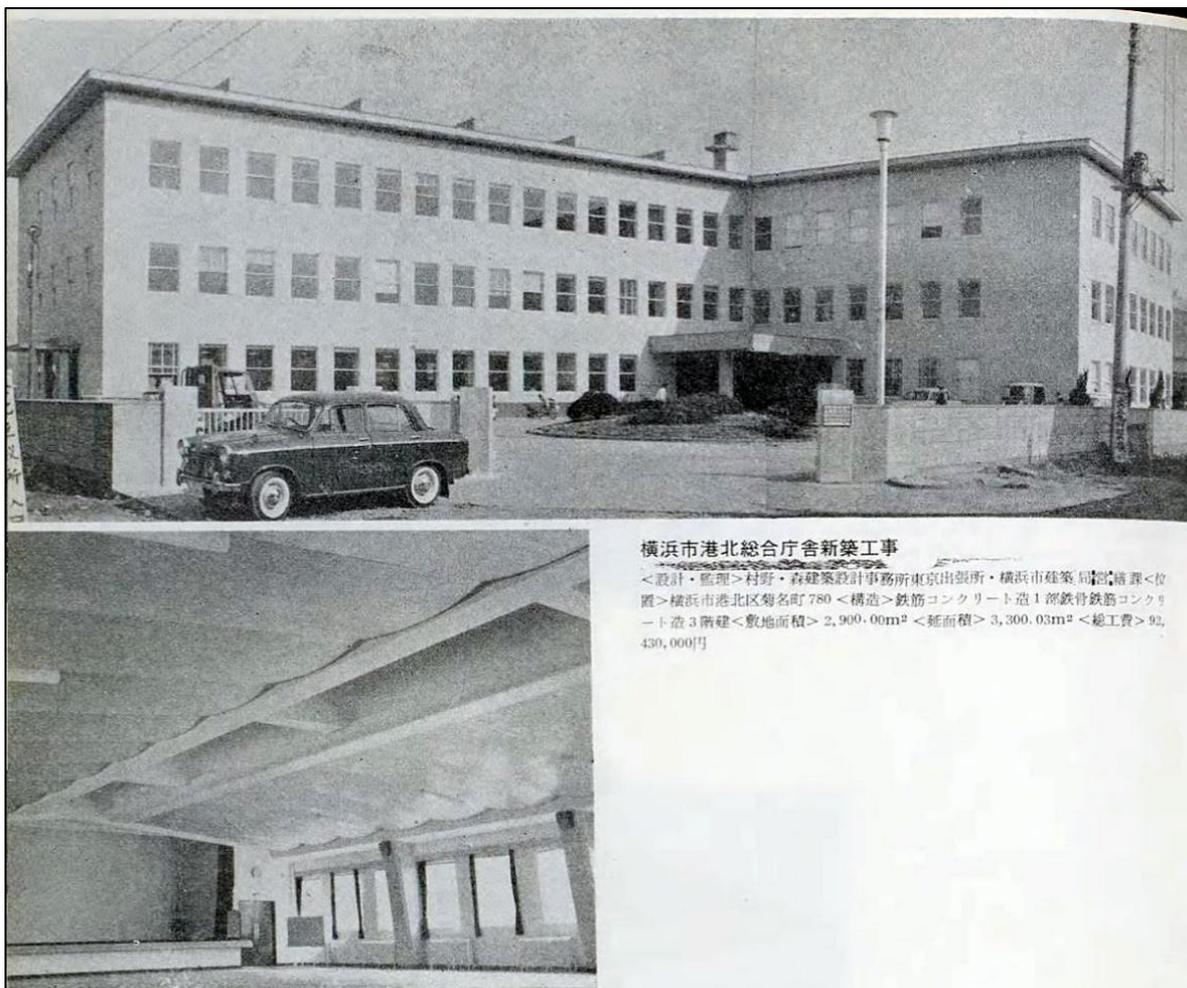
港北区総合庁舎の起工式は 1959(昭和 34)年 8 月 1 日に開かれ、村野氏も顔を見せていたことを伝える「横浜港北新報」の 1959 年 8 月 6 日号

起工式から 1 年 2 カ月後の 1960 (昭和 35) 年 10 月には新たな港北区総合庁舎が完成。区制 20 周年の式典とともに真新しい庁舎内で落成祝賀会が開かれました。この場に村野氏が参加していたかどうかについては、確認できる資料が見つかりません。



港北区新庁舎の落成と区制 20 周年の祝賀会を大々的に伝える「横浜港北新報」の 1960(昭和 35)年 10 月 13 日号、庁舎の設計者に関する記述は見られなかった

港北区総合庁舎の完成後は、**建築業界の専門誌**に「**村野・森建築事務所東京事務所 (※)**」と「**横浜市建築局営繕課**」の設計・監理による建築物などとして幾度か紹介されていますが、その後は設計者について触れた資料類は見つからず、これまでに多数発行されている**村野氏の作品集**に載せられたことも、研究者に**取り上げられた形跡も見られません**。



横浜市港北総合庁舎新築工事

<設計・監理>村野・森建築設計事務所東京出張所・横浜市建築局営繕課<位置>横浜市港北区菊名町780 <構造>鉄筋コンクリート造1部鉄骨鉄筋コンクリート造3階建<敷地面積>2,900.00m² <延面積>3,300.03m² <総工費>92,430,000円

1961(昭和 36)年 3 月発行の季刊雑誌「**公共建築**」に写真付きで紹介された港北区総合庁舎、ここでは「**横浜市港北総合庁舎新築工事**」として「**設計・監理 村野・森建築設計事務所東京出張所・横浜市建築局営繕課**」などと紹介されている。左下の写真は 3 階の「**公会堂**」部分か(国会図書館デジタルコレクションより)

建物名称	所在地	着工年月	竣工年月	施工者	設計監理	構造	地・地上・下	床面積(m ²)	工費(千円)
横浜市港北区総合庁舎	神奈川 横浜	昭 34.7	昭 35.12	紅梅組	村野森建築事務所横浜市建築局	鉄筋	3:0	3,378	93,450
岩洞第一発電所本館	岩手 玉山	34.7	35.12	西松建設	日本工営	鉄筋	2:1	710	66,220
東芝三重工場5号館	三重 三重	34.7	35.12	清水建設	東京芝浦電気	鉄骨	1:0	23,958	220,999
八戸市庁舎	青森 八戸	34.8	35.12	大成建設	久米建築事務所	鉄筋	3:1	7,306	169,670
東北砂鉄鋼業八戸工場製鋼工場	青森 八戸	34.8	35.12	銭高組	東北砂鉄鋼業	鉄骨	1:0	18,915	317,219
神戸製鋼所高砂工場TA工場	兵庫 高砂	34.8	35.12	竹中工務店	神戸製鋼所	鉄骨鉄筋鉄	2:0	21,875	422,172
京都蹴上浄水場	京都 京都	34.8	35.12	鴻池組	京都市	鉄骨鉄筋	3:2	10,791	179,680
昭和産業第6次サイロ及び製粉工場	神奈川 横浜	34.9	35.12	清水建設	日建設計工務	鉄骨鉄筋	7:0	14,942	358,369
銀座東芝ビル	東京 中央	34.9	35.12	清水建設	松田平田設計事務所	鉄骨鉄筋	8:2	3,808	408,572

1963(昭和 38)年 1 月に刊行された**社団法人東京建設業協会**の「**主要建造物年表 昭和 37 年版 増補版第 2**」によると、「**横浜市港北区総合庁舎**」は施工者が西区に現在もある「**紅梅組**」で設計監理は「**村野森建築事務所横浜市建築局**」としている(国会図書館デジタルコレクションより)

また、横浜市がこれまで 60 年超にわたって公式に村野作品として紹介するのは、旧横浜市庁舎（関内）と横浜
市立大学金沢キャンパス本校舎のみであり、規模の小さな旧港北区総合庁舎の設計を村野氏に依頼したこと自体
を「なかったこと」にしたいかのよう。

<p>17 7代目市庁舎</p>  <p>●所在地：中区港町1-1 ●竣工年：1959（昭和34）年 ●延べ面積：30,719㎡ ●構造種別：SRC造 ●階数：地上8階、地下1階 ●設計者：【当初】村野・森建築事務所（村野藤吾） 【2009耐震補強（免震レトロフィット）】東畑建築事務所 ●施工者：（建築）【1期（仮囲、根切等）】松尾工務店【2～4期】戸田組（弱電設備）東洋電機通信工業（強電設備）関東電気工事（空調）大阪電気商会大阪暖房商会（衛生）三機工業（昇降機）東洋オーチス・エレベータ（自動電話交換設備）富士通信機製造【2009耐震補強（免震レトロフィット）】戸田・馬淵・住友電設・ダイダン異業種JV</p> <p>18 横浜マリントワー</p>	<p>【当初】清水建設【2009改修】【第1工区】清水建設【第2工区】（建築）渡辺組（電気）共栄社（空調）日本工業所（衛生）興信工業（昇降機）日立ビルシステム【第3工区】（外構）奈良造園土木【2022改修】（建築）渡辺組（電気）共栄社（空調衛生）日本工業所（昇降機）三菱電機ビルテクノサービス</p> <p>19 横浜市立大学金沢八景キャンパス本校舎</p>  <p>●所在地：金沢区瀬戸22-2 ●竣工年：1963（昭和38）年 ●延べ面積：9,046㎡ ●構造種別：RC造 ●階数：地上3階、地下1階 ●設計者：【当初】村野・森建築事務所（村野藤吾） 【2015耐震補強】横浜市建築設計協同組合 ●施工者：【当初】大林組【2015耐震補強】小俣組</p>
--	---

「村野・森建築事務所（村野藤吾）」の作として横浜市が紹介するのは「7 代目市庁舎」（関内）と「横浜市立大学金沢八景キャンパス本校舎」の 2 施設に限られ、旧港北区総合庁舎（現港北図書館・菊名地区センター）が登場することは無い（2023 年 7 月横浜市建築局発行「横浜市公共建築の 100 年」より）

関内の旧横浜市庁舎はすでに役割を終え、一部の棟は解体されましたが、2026 年春に完成が予定される再開発「BASEGATE（ベースゲート）横浜関内」の実施に際しても旧市庁舎の保存を前提とした計画が組まれました。また、横浜市立大学金沢キャンパスの校舎も竣工から 60 年以上を経た現在も外観を保ったままで使われ続けています。それだけ重要な建物として認識されているわけです。

同じ横浜市の公共建築物でありながら、旧港北区総合庁舎の「港北図書館・菊名地区センター」だけが村野作品として公的に認知もされず、多くの人に知られることのないまま 65 年が経とうとしています。当時を知る人も資料も見つかりづらくなり、建物の老朽化が年々進むなかで、“ただの古い建物”として、このまま消えていく運命にあるのでしょうか。（了）

（※）村野・森建築事務所：戦前から村野藤吾氏が率いた設計事務所で、本拠地を関西に置き、東京にも出張所を設けた。1929（昭和4）年の開設時は「村野建築事務所」だったが、戦後の 1949（昭和 24）年に古参の弟子である建築家・森忠一氏（1908 年～1999 年）との共同名義に変えた。これは「村野先生の不測の事態に備えて社会的な責任の継承者を表明しておく必要」（森忠一氏の子息・忠彦氏談、「建築人」2013 年 7 月号）があったためと言われ、「父親自身も対等な気持ちなんてさらさら無く、村野先生に仕えることを終生貫いたんです」（同）と森忠一氏の子息が明かしている

【情報をお待ちしています】

旧港北区総合庁舎（現港北図書館・菊名地区センター）について「なぜ現在まで設計者が隠されたままなのか」という謎についてヒントとなるような資料がほとんど残されておらず、その手がかりを見つけられずにいます。旧港北区総合庁舎（現港北図書館・菊名地区センター）の建物について、何らかの情報やエピソードを知るみなさまの [ご連絡をお待ちしています](#)。

メールは、info@hiyosi.net または info@shin-yoko.net へ。